

會よりも、經濟的地位に於て劣つて居るのである。之は、輸送能力の發達と能率とに伴つて、第一層顯著になつて來る。現に一オンスの綿をすら發生せぬランカシャーは、世界の紡績中心地となつて居る。千年以來の歴史家の謎を解く手掛りとなるものは、一に團結組織の如何である。故に賃銀制度は、單に、又は第一に誤れる勞働の觀念に基礎を置いて居る許りでなく、誤謬に満ちた不經濟な團體組織の原因たるが故に不經濟である。剩餘價值を、少數階級の所有に集中する結果は、組織的能力の出所たる人間の活動範圍を、必然に局限することとなるのである。

賃銀制度は、富を利潤取得者の管理と資本家の所有との下に於て作り、勞働者を全く仲間外れにして置くものであることは、是迄に述べた通りである。之に對して、どれ程大きな結果が起つて來るかを證明するのは容易でない。例へば次の事實に見よ、四千五百萬の我總人口の中、三千九百萬人は、國民の總收入の僅かに半分を受取るのみである。之は、賃銀に依て生活する我人口の約九分の八は、社會の組織構造に對して、何等の支配權をも有しないことを意味するものである。斯様に組織されて居る社會は、明白にデモクラシーを否定したものである。故に、現在の社會の構造に固有の短處缺陷は、之をデモクラシーの所爲に歸することは出來ないのである。我政治組織が多少デモクラシーの俵を傳へて居るのは事實であるが、然し我國民經濟は徹頭徹尾金力政治に支配せられて居り、其結果、單に外面的に留まりて實質的で無い我政治的デモクラシーを、無效に歸せしめて居るのである。

資本家が其利益の爲めに、産業管理權を保留しようと思ひのは、當然のことである。資本家の見

地から云へば、能率高き管理法の爲めに支配權を失ふよりも、能率低き管理法と共に支配權を維持する方が結構である。例へば、デヴィッド・サーストン會社社長故サーストン氏は、其息子に遺言して「其父祖が約一世紀懸つて作り上げた會社の地位と名聲とを、局外者の萬一の怠慢や失錯に依て、汚濁毀損せられないように、其會社の取締に任せよと云つた。然しながら此新たに事業の所有主となつた黄口兒が、必ず現在の管理者達よりも事業の利益をよく保護することが出來ると云ふ證據は何處にあるであらうか。又所有者でない支配人等は、遂に『局外者』に過ぎないことにも注意しなければならぬ。年若な者が遺産相続に依て大事業の管理權を繼承することは、恐らく、能率高き事業の組織を成立せしめない最も重大な原因である。之は久しい以前から認められて居ることで、其救済策としては、多額の給料や利益配當に依て、優れた管理人を備ふことの出來る株式會社の組織が採用せられた。然し此制度は、能率高き管理法を産出する人材登庸の範圍を幾何も擴張し得るものには無い、何故ならば、非所有主たる管理人は、所有主と大體類似した社會的階級の出身であつて、其備主と殆ど同一の環境の中に教育訓練せられ、やがては自分も備主たるの地位に出世せんことを志して居るものである。斯様にして、聰明なる管理人でさへも、管理すること其れ自身を、主たる動機として居ない。彼に取つては、其れは單に、自身もやがて一備人の地位を脱して、所有者階級の一員に列しよういふ究極の目的に到達する一手段に過ぎないのである。が兎に角、専門の管理者階級の存在する事實は認むるにもせよ、其管理能力は、必ず配當を擧げなければならぬといふ第一條件に依て、嚴重に制限されて居ることを忘れてはならない。然るに剩餘價值を護るの道は一に賃